



おわりに

私が“かかわりの力”に関する研究をしたいという思いから、大学教員への新たな一步を踏み出したのは、平成19（2007）年のことです。大学という1つの組織の中、さまざまに遂行すべき役割はありますが、一番になすべきことは“研究”です。自分の専門分野で実績を重ね、それを論文や著書としてまとめ、世に示すことが私に求められているのだと、ずっと自分に言い聞かせてきました。そして、特に私が願ったのは、学校現場の先生方が手に取りやすく、明日から子どもたちに試してみたいと思えるような「実用的な単著」を書くことでした。

その願いは、幸いにも、平成22（2010）年、『時々、“オニの心”が出る子どもにアプローチ 学校がするソーシャルスキル・トレーニング』（明治図書）発刊という形で叶えることができました。その後、数冊の単著執筆の機会をいただくうちに、「大学教員として10冊の単著を書く」という新たな願いが私の心に大きくなりました。

「一冊、もう一冊」と執筆を続け、このたび、ほんの森出版の小林敏史様より、本書『超多忙でも実践できる！ スリンプル（スリム&シンプル）・プログラム 週1回10分の「〇〇タイム」で「かかわりの力」を育てる』の執筆のお声をかけていただき、10冊目の単著発刊という願いを叶えることができました。

私は、道元禅師の「この心 あながちに切なるもの 遂げずと云

ふこと なきなり」という言葉が好きで、プリントアウトしたものを研究室の壁に貼っています。

自分の心の中にある「かかわりの力」に関する研究をしたい」という強い思い。そのような思いがあると、その思いを叶えるために日常的な準備・努力に心を向けることができます。日々休まずに少しずつ歩き続けていたら、学校現場の誰もが使えるスリムでシンプルなプログラム（スリンプル）に到りました。そして、スリンプルに特化した書籍を10冊目の単著として発刊できたのです。

遠くに見えていたゴールにいつの間にか到達できたと実感する今、「継続は力なり」という言葉を噛みしめています。そして、それを支えてくださったのは、スリンプル実践校の同志の皆さんです。深く感謝申し上げます。

*

これまで、私の日々の実践・研究の歩みを後押ししてくださったのは、亡き恩師、國分康孝先生の「君は自身の体験を概念化する能力がある。これからもその力を大事にすればよい」というお言葉です。先生からのお言葉は、私の「お守り」です。この「お守り」を肌身離さずに、これからも歩みを続けていきます。

私の歩みを日々支えてくれたのは妻・晃子です。私の力を信じてくれる彼女の存在が、私の力を引き出してくれるのだと感じます。息子（泰賀）、娘（翳衣）、孫（新）、義父母（昭二郎・ツマ）の応援にも感謝しています。そして、亡き両親（睦治・博子）に思いを馳せて……。本当にありがとう。

令和5（2023）年

曾山 和彦